

当協会における肝炎ウイルス検診の現状と課題

財団法人福島県保健衛生協会

○吾妻明子 梅津水無子 星健也

【はじめに】

平成14年4月1日からC型肝炎緊急総合対策の一環として基本健康診査の項目に追加されてから、平成22年度までの9年間に当協会では約16万人の肝炎ウイルス検査を実施してきた。

現在までの検診実施状況、現状と課題について述べる。

【現状】

検診受診者数をみると、検診初年度の平成14年度には3万人程度であったが、事業が終了する18年度には2万5千人弱となり、平成22年度は6500人程度の実施であった。

HCV抗体の陽性率は当初1.2%と高かったが年々減少し、22年度は0.4%であった。

HBs抗原の陽性率もHCV抗体同様、年々減少した。精検結果については、平成19年度までは受診はがきが自治体に返送されていたが、平成20年度からは特定健康診査の開始に伴い受診はがきが廃止され、電話や訪問などで把握していた。

【課題】

1、未検者への受診勧奨と知識の普及

肝疾患に対する認識が未だ高くはない現状のため、特定健康診査の機会を利用しての受診勧奨や、健診機関としてリーフレットを利用するなど肝疾患についての知識普及と受診勧奨を行っていきたい。

2、確実な精検受診への働きかけ

精検結果の把握や専門医への治療勧奨をさらに確実とするため、実施主体である市町村や拠点病院・専門病院との連携を密にしていきたい。